

一

木の芽田楽き めでんがく

温湯を大盤に湛へ、切るも串にさすも其うんたう おおはんぎり たゝ くし

湯の中にてする也、やほらかなる豆腐にても危くおつるなどあやう

のうれへなし、湯よりひきあげすぐに火にかくる也、○味噌みそ

に木の目勿論なり、醴あまさけのかた入れを二分どほりミそにもちろん

すりまぜれば尤佳也、多く入れバ甘すぎて却てよろしからず、よし おほ かへつ